


ま な び や

# 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.43 2016年8月24日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

---

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただきありがとうございます。ニュースレター発行が滞る間に、卒業式／入学式があり、季節も冬から春を経て夏、そして秋の気配へ。パソコンに向かう今日は二十四節気の処暑、暑さも落ち着いた頃だそうです。夕の西空では金星と木星大接近、南には土星・火星・さそり座アンタレスが三角形で競演。屋上の夕涼みも、やがて蝉の声から虫の声に入れ替わるでしょう。夏休みが明け、またキャンパスに賑わいが戻って来ます。

「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい」  
(Iテサロニケ5：11)。

校長 関野祐二

## ● 嘆きのままでも

専門科の説教Bクラスに、特別講師としてH先生を年に一度お迎えするようになってから、今年で何回目でしょうか。授業前半が終わった六月某日の夜チャペル、開かれたのは嘆きで終わる詩篇88篇。「愛する者も友も／あなたはわたしから遠ざけてしまわれました。今、わたしに親しいのは暗闇だけです」(19節、新共同訳)。正しさを求める小言は神に怒るが嘆きは神に向かって泣く、それは不信仰でないのだから、浮かれた讃美もどきで満足せず、聖書に満ちている嘆きを学び、嘆きを訓練し、安心して嘆け、嘆きは主イエスにあって必ず慰めにつながるのだから。「悲しみと慰めとは深い所でひとつになっている」との、森有正の引用が心に残りました。自分が牧師であることを忘れ、ひとりの信仰者として主の御前に「嘆き」を振り返る静かなひととき。前回のレターから今日まで、世界にも身近にも何とたくさんの悲しみがあったことでしょう。組織神学で扱った神義論(なぜ神が愛で全能ならこの世に悪が存在するのか)は、決して不毛な議論ではなく、悲しみと嘆きのただ中に立たされた信仰者の、真剣な問いかけの歴史。ハレルヤで終わらなくても、アーメン感謝ですと言えなくても、それを不信仰だとか、罪だとか決めつけることなく、詩篇から、預言書からもっと嘆きを学びたい。少し手前味噌ですが、わが神学校の科目に「霊性の神学」を設けてよかったと、今更ながら思います。クラスが終わり、泣き腫らした顔で出て来る神学生たちを垣間見ながら、ちょっぴりうらやましさを感じるこの頃です。

## ● 今年も究極のビフォーアフター

大きな声では言えないけれど、防水工事とトイレのリフォームが終わったら、次は拙宅のサニタリー関連(浴室／トイレ／洗面所／台所排水と換気)改修に着手しようと考えていました。目黒の学び舎三階に転居して十六年、立地や広さはスターの豪邸並みでも、水回りだけはどうにもなりません。数年前に理事会のゴーサインは出ていたのですが、考える所あってこういう順番に。「どんな宿泊施設でも大丈夫だよ」と、何ともポジティブな子どもたちが健気に思えてきます。

同じ信仰者の設計監修者と工務店が与えられ、「なんとかしてあげたい」との思いに背中を押されて腰を上げ、この夏休みついに着工。いやはやこんなに生活が変わるとは予想以上でした。ボタンひとつでバスタブに適温のお湯が張れ、「これが今の標準ですよ」と言われても申し訳なくて。知る人ぞ知る風呂嫌いが、なんと楽しみに変わる奇跡が起こったのでした。風呂の壁にカビがない、台所のシンクに水が溜まらず流れる、こんな日常に感謝できるなんて、素晴らしく幸せ！これで毎日の疲れもスッキリ取れ、宿題やレポート採点がパワーアップするかも。え？迷惑だって？

## ● 愛されっぱなしの金メダル

わが聖書解釈学クラスは、基礎科でいろいろな聖書知識を蓄えた神学生諸氏が、いかにみことばをアウトプットするか試される、けっこうシビアな道場。解釈の一般論をフムフムと学ぶうちはいいのですが、実際の聖書箇所から解釈演習の説教レポートを書く段になると、何を求められているか急にわからなくなるのです。「序論は短く、聖書から本論をたっぴりと」「説明ではなく福音メッセージを」と言われたって、どうしたらいいのやら... そんな呻きがレポートの端々から聞こえてきます。粗訳プリントの全訳が昨年出版されたのを機に（ずいぶん販売に貢献しました）、テキストは自分で読んで来てもらい、演習レポートをめぐるディスカッションの時間を多めに取るようにしています。クラスも二十回の半分を超えた頃、「福音って、愛されっぱなしになることですよ？」との発言。そう、ヤコブも、イスラエル民族も、富める青年も取税人も、そこから神との関係回復、自分自身の尊重、そして隣人との交わりが始まったのでした。主イエスにあって罪人がそのままで愛される逆説は、自分の十字架を負い羽のように軽く自由に従う逆説へとつながる... これって、帰宅した放蕩息子が神の子どもとして金メダルをもらったようなもの。ヨハネ1：12「神の子どもとされる特権」のフレーズが胸に迫って来ました。どんなに赤ペンだらけのレポートを突き返されても、それだからこそ愛されているのだと受け止めてくださいね。

## ● 伝道会議から後期、そしてオープンキャンパスへ

今年は七年に一度の日本伝道会議開催年。なんと前期最終週の火曜～金曜に当たりました。プロジェクトや分科会など、聖契神学校との関わりについては「神学校ニュース127号」をご参照ください。いくつかの授業は休講やむなく、例年とは趣の異なる期末となるかも。金曜夜の新約通論は教師不在でも試験があるのでごめんなさいね（神戸からの帰り道で試験対策を！？）。へろへろの学期休みを経て、10月10日が休日返上の後期初日（これもゴメンネ）。おっと、9月13日（火）午後4時、後期からの聴講生希望者面接ですから、どうぞお忘れなく（願書締め切りは9月3日、火星着陸40周年記念日）。そして10月29日（土）が恒例オープンキャンパスです。午前はチャペル（校長が担当です）と新約緒論&霊性の神学公開授業、証しが楽しいな学生会主催の昼食をはさんで、午後の特別講演会は伝道会議分科会をリファインした霊性トピック。夏休みのカナダ滞在で人生観が変わったというY先生のお話を、来校の方も在校生も乞うご期待。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生78名、教職員15名による、前期9月末までの授業が支えられるように。第6回日本伝道会議で、本校教師が良き働きをし、「教育課程」を含め良きPRが出来るように。
- ・ 10月29日オープンキャンパスに多くの方々が来校し入学希望者が起こされるように。

- 本校の運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。